

2024年 労働経済 100日間 メールセミナー

第1日目 令和5年版 厚生労働白書 No.1

第1部 つながり・支え合いのある地域共生社会

【問題】我が国の人口は、2008（平成20）年の1億2,808万人をピークに減少に転じた。

■解答…正解

【問題】2022（令和4）年の総人口は約1億2,495万人であるが、2070（令和52）年には約30%減少し、総人口が9,000万人を割り込むと推計されている。

■解答…正解

- ①日本の人口は、平成20年の1億2,800万人がピーク。
- ②2022年（1億2,400万人）⇒2070年（9,000万人）

【問題】2022年の出生数は80万人を割り込むなど、急速に少子化が進展している。

■解答…正解

【問題】2025（令和7）年には、第一次ベビーブーム期（1947（昭和22）年～1949（昭和24）年）に生まれた「団塊の世代」全ての者が、75歳以上の後期高齢者となる。

■解答…正解

2025（令和7）年⇒「団塊の世代」全ての者が、75歳以上の後期高齢者に。

団塊の世代	団塊ジュニア世代
1947（昭和22）年～1949（昭和24）年に生まれた者。 令和7年には、「団塊の世代」全ての者が、75歳以上の後期高齢者。	1971（昭和46）年～1974（昭和49）年に生まれた者。
この3年間の年間出生数は260万人超。	

2024年 労働経済 100日間 メールセミナー

【問題 2040（令和 22）年には、「団塊の世代」のこども世代として第二次ベビーブーム期（1971（昭和 46）年～1974（昭和 49）年）に生まれた「団塊ジュニア世代」全ての者が 65 歳以上となる。

■解答…正解

【問題】 2070 年には 65 歳以上の者の割合が 38.7%となる見通しである。

■解答…正解

【問題】 1 世帯当たり人員の推移を見ると、1990（平成 2）年の 2.99 人から 2020（令和 2）年の 2.21 人まで減少し、この間、「世帯人員 1 人」及び「世帯人員 2 人」の世帯数、全世帯数に占める割合がともに増加してきた。

■解答…正解

【問題】 国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計（全国推計）」（平成 30 年推計）によると、2040（令和 22）年における 1 世帯当たり人員は 2.08 人まで減少すると推計されている。

■解答…正解

【問題】 世帯類型をみると、単独世帯の割合は増加してきており、2020（令和 2）年には単独世帯数は約 2,115 万世帯となり単独世帯の割合は世帯総数の約 4 割を占めている。

■解答…正解

2020（令和 2）年 単独世帯の割合約 4 割

【問題】 夫婦と子どもからなる世帯は、世帯数、世帯総数に占める割合ともに減少傾向である。

■解答…正解

2024年 労働経済 100日間 メールセミナー

【問題】男性の各年代の人口に占める単独世帯者数の割合は、2020（令和2）年では20歳代が32.6%と最も高く、2040（令和22）年でも同世代が30.8%と最も高いと見込まれる。一方で、60歳以上の人口に占める単独世帯者数の割合は、2040年に向けて大きく増加すると見込まれる。

■解答…正解

（男性）単独世帯者数の割合⇒2020（令和2）年では20歳代が32.6%と最も高い。

【問題】女性の各年代の人口に占める単独世帯者数の割合は、2020（令和2）年で80歳以上が26.9%と最も高くなっており、2040（令和22）年でも同世代が最も高いと見込まれる。

■解答…正解

（女性）単独世帯者数の割合⇒2020（令和2）年で80歳以上が26.9%と最も高い。

【問題】若者の結婚意思をみると、「いずれ結婚するつもり」と考えている未婚者の割合は、1990年代半ば以降、男性は約85%程度（1997（平成9）年から2015（平成27）年の平均は86.4%）、女性は約90%程度（同期間の平均は89.2%）と比較的安定的に推移してきたが、2021（令和3）年では従来よりも減少し男性は81.4%、女性は84.3%となった。

■解答…正解

若者の結婚意思「いずれ結婚するつもり」

2021（令和3）年 男性81.4%、女性84.3%

【問題】一方、「一生結婚するつもりはない」と答える未婚者は2000年代に入って増加し、2021年では、男性で17.3%、女性で14.6%となった。結婚意思を持たない若者が増加傾向にある。

■解答…正解

若者の結婚意思「一生結婚するつもりはない」

2021（令和3）年 男性17.3%、女性14.6%

2024年 労働経済 100日間 メールセミナー

【問題】未婚者が考える独身生活の最大の利点は、「行動や生き方が自由」な点を挙げる者が男性では70.6%、女性では78.7%と男女問わず最多である。

■解答…正解

独身生活の最大の利点 1位「行動や生き方が自由」

【問題】未婚者の結婚や家族に関する考え方についてみると、「生涯を独身で過ごすというのは、望ましい生き方ではない」という考えを支持する割合は、2015（平成27）年には男性で64.7%、女性で58.2%であったのに対して、2021（令和3）年には男性で51.1%、女性で39.3%と、いずれも大幅に低下している。

■解答…正解

「生涯を独身で過ごすというのは、望ましい生き方ではない」支持する割合
男性51.1%、女性39.3% いずれも大幅に低下。

【問題】「結婚したら子どもは持つべきだ」という考えを支持する割合も、2015年には男性で75.4%、女性で67.4%であったのに対して、2021年には男性で55.0%、女性で36.6%と大幅に低下している。

■解答…正解

「結婚したら子どもは持つべきだ」という考えを支持する割合
男性55.0%、女性36.6% 大幅に低下。

【問題】今後、少子高齢化・人口減少が本格化する中で、高齢者層を中心として単独世帯数が増加していくことが見込まれる。また、若年層においても、結婚・家族に関する意識が変わるなど、世帯を構成することについての考え方が変化している様子が見られる。

■解答…正解